

http://www

知求会 EU 支部ニューズレター

Newsreel World

2012年 5月 1日
第5号

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp
facebook: Matsubara Mamiko

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

プロフィール: 松原真実子 青森県八戸市出身 国際文化研究専攻修士
3.11 勤務先大学内で被災。現在イタリアはミラノ近郊レッコ市滞在
修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用』

この号の内容

- 1 イタリア
再生可能エネルギー
- 2 EU 支部だより
太陽光発電について

イタリア 再生可能エネルギー

イタリア 最後の「原子炉の町」、太陽光発電に未来をかける

イタリア中部にある市、モンタルト・ディ・カストロは、約 20 年間にわたって原子力発電所の建設が禁止されていた同国で最後にプラントが建設された場所だ。同市は現在原子力発電の再開に反対し欧州最大規模の太陽光発電施設に未来を賭けている。モンタルトの人口は約 9000 人。企業と協力して、出力 4 万 5000 キロワットの主要太陽光発電施設の開発・操業を手掛けている。電力は 1 万 5000 世帯に供給可能で、欧州最大規模。現在の供給能力は、計 8 万 5000 キロワットだが、年末までに 12 万キロワットに増える見通しだ。(2011 年 4 月 18 日)



イタリア 太陽光発電支援制度で関連産業が活性化

再生可能エネルギー (RE) の優遇制度を管理する電力サービス管理会社 (GSE) によると国内の太陽光発電設備設置容量が 2011 年 9 月に 1 万メガワット (MW) を超え、27 万台以上の太陽光発電施設が稼働している (9 月 8 日時点)。コント・エネルギーと呼ばれる電力固定価格買い取り制度 (FIT) が導入されており、太陽光発電導入拡大の大きな要因になっている。11 年には買い取り価格が引き下げられたが、国内外企業の同分野への参入や投資は続いており GSE は 11 年通年で太陽光発電設備容量は 1 万 2,000 MW 設備設置数も約 35 万台に達するとみている。(2011 年 11 月 14 日ミラノ発 JETRO)

イタリア 5ヶ所の太陽光発電所稼働開始に日本の技術

2012 年 3 月末、太陽光発電所がイタリア 5 か所で新たに稼働を開始した。日本 S 社の太陽電池モジュールが採用されている。5 か所合計の発電量は、イタリアの一般家庭の年間消費電力量約 7,200 世帯分に相当する年間 1,950 万 kWh となる。EU (欧州連合) では、最終エネルギー消費に占める再生可能エネルギーの割合が 2050 年に少なくとも 55% 以上になると試算しており、日照時間が長く、日射量が多い地域での大規模太陽光発電所の設置は拡大する見込みだ。(Apr 12, 2012 JCN Newswire)

EU 支部だより — イタリアの太陽光発電について

日照量の豊富なイタリアでは、太陽光発電産業に大きな期待をかけ、ドイツよりも高い買取価格でかつ 20 年間の買取保証をするイタリア版 FIT 制度 (固定買取制度) を導入してきた。2011 年には太陽光発電施設メガソーラーの計 9 ギガワットにもおよぶ大量導入が行われた。同年世界全体の太陽光発電導入量は 28 ギガワット。イタリア 1 国だけで、世界の 3 分の 1 にあたるソーラーパネル量が流れ込んだ計算になる。同時に、2012 年 7 月以降の買取分を上回ってしまったため、以後、新規買取を制限。2011 年の 9 ギガワットの半年分 4.5 ギガワット分のソーラーパネル需要が消えたことになる。

一方日本では、2012 年 7 月からメガソーラー全量買取が始まる。調達価格等算定委員会が決定予定の買取条件によっては、今度、日本に大量のソーラーパネルが流れ込んでくる可能性もあるといえるだろう。メガソーラーなどの事業者・関係者としては、少しでも多くの利益を得ようとするだろうが、そのツケを、国民が電気代として払うことになるというのを忘れてはいけない。2012 年 4 月 1 日、世界一高いイタリアの電気料金は、さらに 5.8% 値上げされている (3 月 31 日 Corriere della Sera) (松原)

- ・最後の「原子炉の町」
太陽光発電に未来をかける
- ・太陽光発電支援制度で
関連産業が活性化
- ・5ヶ所の太陽光発電所
稼働開始に日本の技術



- ・メガソーラー
- ・FITと大量導入
- ・世界の3分の1
- ・電気料金の値上げ